

材料施工委員会「小委員会委員」公募

材料施工委員会では、下記の小委員会委員を公募します。参加を希望される会員は応募要領に従いふるってご応募ください。

■募集要領

下記（１）（２）を作成のうえE-mailにてご提出ください。

（１）希望の小委員会名

（２）応募者について

- ①会員番号、氏名、年齢、所属、職位、連絡先住所、同電話、E-mail アドレス、専門分野
- ②現在、本会で所属している委員会の有無、応募中の委員会の有無（有の場合は委員会名を記すこと）
- ③希望委員会で果たせる役割
- ④希望委員会に関連する業績

委員任期：承認日～2015年3月

募集人員：若干名

応募締切：2013年3月29日（金）必着

採 否：委員会で決定のうえ、本人に通知します。

提 出 先：事務局研究事業G 浜田 E-mail : hamada@aij. or. jp

■RILEM小委員会

主 査：野口 貴文（東京大学）

設置期間：2013年4月～2015年3月

活動目的：RILEMの活動に関する情報収集を行い、建築材料および試験方法に関する国際的な研究動向を把握し、国内の研究者・技術者に周知することによって、我が国の当該分野の研究の発展に寄与するとともに、RILEMを通じて日本建築学会の研究活動を国際的に伝達・普及する。今期は、ポリマーセメントモルタルで補修したコンクリート部材の耐火性に関する研究委員会をRILEM内に設置するので、その活動支援を行う。

■収縮低減材料コンクリート施工指針作成小委員会（鉄筋コンクリート工事運営委員会）

主 査：名和 豊春（北海道大学）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：縮低減材料を用いたコンクリートの調合・施工に関する研究小委員会（2009年4月～2013年3月）の研究成果を踏まえ、JASS 5や2006年2月に発刊された鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ制御設計・施工指針（案）を補完する指針として、「収縮低減材料を用いたコンクリートの調合・施工指針」を作成する。

■溶接小委員会（鉄骨工事運営委員会）

主 査：山田 丈富（千葉工業大学）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：活動目的：鉄骨工事における溶接施工に関する問題点や最新の情報の整理を行

なうとともに、鉄骨工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事、鉄骨工事技術指針・工場製作編および鉄骨工事技術指針・現場施工編の「溶接」に関する部分の改定作業を行う。

■鉄骨非破壊検査小委員会（鉄骨工事運営委員会）

主 査：原田 幸博（千葉大学）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」が溶接・検査技術の現状に則して実務で円滑に活用されるよう、改訂等に対応するための活動を行う。具体的には、同規準の活用状況についての意見収集、最新の知見に基づく規準の次期改訂のための検討を行う。

■鉄骨精度小委員会（鉄骨工事運営委員会）

主 査：加賀美安男（日建設計）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：JASS6 及び鉄骨工事技術指針の鉄骨製品・部材の寸法精度測定・検査に関する記述の検討を行い、次期改定に反映する。また、JASS6 付則 6 鉄骨精度検査基準の解説本である鉄骨精度測定指針の次期改定に向けて、記述内容の検討を行い、原稿作成し、改定版を出版する。改定版の出版後は、講習会等により一般に周知するための活動を行う。鉄骨精度測定指針の次期改定は設置期間内に実施する。

■メーソンリーユニット選定手法研究小委員会（組積工事運営委員会）

主 査：千歩 修（北海道大学）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：近年、コンクリートブロック、焼成れんがなどのメーソンリーユニットの形状・品質が多様化しているが、その選択方法は明確ではない。また、メーソンリーについては、計画供用期間などの考え方も一般化されていない。ここでは、メーソンリーユニットの形状・品質・使用方法などを整理し、使用環境、計画供用期間、仕上材料の有無などに対応したメーソンリーユニットの選定手法を検討する。

■メーソンリー改修技術研究小委員会（組積工事運営委員会）

主 査：長谷川 直司（建築研究所）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：材料施工本委員会では、RC 造建築物の改修工事標準仕様書作成を目標として各種委員会活動を行っている。メーソンリー工事のなかには、RC 造建築物の仕上工事、非構造壁、耐震補強等として改修に使用されるものがあり、改修技術として整理する必要がある。また、メーソンリー建築物自体の改修工事もあり、改修工事標準仕様書の必要性についても検討する。

■地下外壁外防水小委員会（防水工事運営委員会）

主 査：岡本 肇（竹中工務店）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：建築物の長寿命化、品質向上を目指すにあたり、地下壁の外防水設置の意味は大きいと考えられるが、設計者、施工者、建築主の理解が少なく、位置付けが明確にされていない状況にある。そのため、この地下外壁外防水工法について、必要性、メリット、デメリットを整理し、設計者、施工者、建築主に対して、仕様、工法に関する概要と採用可否の判断ができる情報を発信する。

■防水材料耐久性評価試験方法小委員会（防水工事運営委員会）

主 査：竹本 喜昭（清水建設）

設置期間：2013年4月～2015年3月

活動目的：これまでのワーキング活動においては、各種防水材料の長期屋外暴露（2012年で10年経過）を継続して実施してきた。この長期暴露試験データを精査し、促進暴露試験との相関を検討することで、各種防水材料における暴露試験方法の見直しと新しい長期耐久性評価方法の提案を目的とする。屋外暴露試験は、あと、15年目と30年目のデータ取得を計画している。

■床性能評価指針検討小委員会（内外装工事運営委員会）

主 査：横山 裕（東京工業大学）

設置期間：2013年4月～2016年3月

活動目的：居住者の日常の安全性や快適性の観点から床に要求される性能項目を対象に、関連する研究成果などを精査し、性能に基づいた合理的な床の開発，設計に資する性能評価方法を選定する。また、学術的根拠に基づいて性能の推奨値を設定し、性能評価方法とあわせて、床性能評価指針としてまとめる。

■非構造部材の耐震設計指針改定小委員会（内外装工事運営委員会）

主 査：清家 剛（東京大学）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：東日本大震災では、天井などの非構造部材に多大な被害が発生した。その後被害調査が実施され、いくつかの新しい耐震設計のあり方に関する検討がなされている。こうした非構造部材に関する新しい知見をもとに、今後の耐震設計について議論したうえで、本会発行の「非構造部材の耐震設計指針・同解説および耐震設計・施工要領」（2003年版）を改定することを目的としている。

■建築生産イノベーション小委員会（建築生産運営委員会）

主 査：後藤 礼彦（竹中工務店）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：市場や産業が縮小傾向にある中で、建設業の生産性のさらなる悪化が懸念されている。本委員会では、経済学等におけるイノベーションの概念を参考に、生産技術や産業基盤の形成過程と、それに基づく生産性向上の歩みを調査し、建築生産におけるイノベーションの形とそれを促した要因を探る。また、今後の

建築生産のあり方を議論し、生産性向上に資する新たな知見を獲得する事を目指す。

■ C A技術小委員会（建築生産運営委員会）

主 査：井上文宏（大林組）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：本小委員会では、建築の生産性向上に資する自動化、ロボット化、システム化等のコンストラクションオートメーション（C A）技術の研究開発を啓蒙・促進するための調査研究及び技術交流等の活動を行うことを目的とする。具体的活動の内容としては、（1）シンポジウム等の企画・開催、（2）WGにおける調査研究、（3）関連国内外における諸団体との交流や共同活動、等を予定している。

■ 熱環境建材研究小委員会（環境配慮運営委員会）

主 査：野口 貴文（東京大学）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：空調エネルギーの負荷の削減およびヒートアイランド現象の緩和のために必要となる建築材料の断熱・遮熱・蓄熱といった熱特性を明らかにするとともに、これらの熱特性を適切に測定するための試験方法に関する調査も実施し、建築物および都市のカーボン・ニュートラル化およびゼロ・エネルギー化の実現に資する建築材料の活用法を提案する。

■ 高炉スラグ微粉末・高炉セメントを使用するコンクリート研究小委員会
（環境配慮運営委員会）

主 査：鹿毛忠継（建築研究所）

設置期間：2013年4月～2017年3月

活動目的：材料の製造技術の進歩・変遷、建築物の設計・施工技術の進歩、環境に関する社会ニーズの変化等を考慮し、本会「高炉セメントを使用するコンクリートの調合設計・施工指針」、「高炉スラグ微粉末を使用するコンクリートの調合設計・施工指針(案)」の見直しを行う。特に、環境性能を高めるために高炉スラグ微粉末の含有量を高めたコンクリートの研究成果等を反映する。